平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	13	ー	1

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	介護老人保健施設開設準備事業					
評価者	担当課名		国保病院	担当係名		庶務係
	管理職	職名	事務長	作成者	職名	係長
		氏名	髙橋健仁		氏名	新谷朋人
事業の概要	医療療養病床の利用率と採算性、地域ニーズ等を考慮し、国の療養病床の削減方針に則り、病床転換に係る各種支援措置の適用となる平成23年度中を目途とし、雄武町国民健康保険病院の医療療養型病床26床について、介護老人保健施設へ転換することとし、開設に向けた準備を進める。			全体計画 /単年度繰返 （平成 22 年度～ 23 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	3,300 千円
					事業費計	3,300 千円
実施方法	■ 直営		□ 民間委託		□ その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		□ 非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～			
	基本施策	7	高齢者支援の充実			
	単位施策	1	介護サービスの充実			
	事務事業の種類	■	自治事務	□	法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	1,176 千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	170 千円	235 千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	3,128 千円	千円
	合計	千円	千円	170 千円	4,539 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	雄武町国民健康保険病院	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	雄武町国民健康保険病院の療養病床は、医療必要度の低い「社会的入院」といわれる患者が多く、また、利用率も低いため採算性に乏しい。	介護老人保健施設の開設		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	空きベッドの有効活用によって、経営の良化を図る。	① 開設施設数	目標年度	平成23年度
			目標値	1
			実績値	1
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	医療療養型病床を介護老人保健施設へ転換する。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
職員研修の実施	転換後、入所者に対して適切なサービスを行えるよう、他の介護老人保健施設の協力の下、職員を派遣し、実務研修を行った。
開設準備	施設の模様替えや必要備品等を購入し、円滑な転換に向け準備を行った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	介護老人施設としての必要な準備を行うとともに、開設後の入所者への適切なサービス提供には欠かせない事業である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	事前の準備と関連職員の研修の実施により介護老人保健施設の円滑な開設ができた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	必要物品の購入にあたっては、複数会社による見積もり合わせをおこない、事業費の抑制を図った。職員の実務研修は事前に視察先の選定や交通手段や日程を協議し、費用削減に努めた中で、転換に向けた必要な知識などを学ぶことができた。施設の模様替えには補助事業を活用し、一般会計や病院会計からの負担が無く実施した。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	病院の経営状況の良化は、常に町民が望むところである。また、介護老人保健施設の開設は、要介護者の生活支援の一助となり、高齢者支援の充実につながる。介護施設サービスの受益は高齢者全般に及ぶものであることから公平なものと判断する。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本事業の実施により、介護老人保健施設への速やかな転換をおこなうことができた。	同左	

今後の展開方向
（Action）

終了	終了	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）